

# 美郷大使鼎談

～美郷のまちづくりを語る～  
から

## 美郷大使が語る

# 美郷町の大切にすべき特徴について

11月23日に名水市場湧太郎で「美郷大使鼎談～美郷のまちづくりを語る～」が開かれ、松田町長を進行役に、美郷大使である町田睿さん、佐々木毅さん、永田萌さんの3名が「美郷町の大切にすべき特徴」と「交流人口の増加」をテーマに意見交換を行いました。大使の皆さんは美郷町のまちづくりについてどのような提言を行ったのか、鼎談の内容をご紹介します。（一部抜粋および編集）

## 美郷町の大切にすべき特徴について

これからは地方の時代  
地域資源を生かしていこう

町長…（合併から現在に至るまでの町の施策と、湧水、食材、風景などの美郷町の特徴について説明した後）大使の皆さんが美郷町に足を踏み入れたときに実感する「美郷町の大切にすべき特徴」は何でしょうか。町田大使、経済という観点から見ていかがでしょうか。

町田大使…銀行員という職業柄、自分たちを取り巻く環境について常に關心を持っています。携帯電話ひとつとっても、情報通信技術の革命が我々の生活を一変させたことが実感できますし、先進国では少子高齢化が進んでいます。このような変化の時代に大切なのは独立自尊の精神で

す。「行政が何もしてくれない」というお上依存ではなく、我々住民自らが積極的に変化に対応していく必要があります。

特に3月11日の東日本大震災は、日本が抱えている環境の変化を決定的に意識させました。日本は効率化を最重視し、人、物、金などの経営資源を首都圏に一極集中させることで経済大国になりましたが、今回の震災は、一極集中には大きなリスクがあることを教えてくれました。そういう意味で、これからは多様な地方の時代、スモール・イズ・ビューティフル（小さいことはいいことだ）という時代になったのではないかと考えています。

これからは、行政と我々地域住民一人ひとりが知恵を働かせながら地

域資源を生かしていくことが必要になります。皆さん方一人ひとりが、起業家になるような風土をつくることで美郷町の発展につながるのではないかと考えています。

## 水と森は一体の関係 森林資源をどう活用するか

佐々木大使…私がここに住んでいた昭和30年代のことですが、いい時代だったなと改めて思い出しています。その頃は都市よりも農村の方が色々な意味で資源を持っていましたし、木材の値段も高く、景気のいい話もたくさん聞きました。

美郷町の大切にすべき特徴としての水、食材、風景。これらは守るべきものとして大切に作り組んでもらいたいと思いますが、「森林を何とかしてほしい」というのが私の希望です。日本は、国土に占める森林面積が世界で2番目に多い国です。国土緑化推進機構の理事長として森林や緑化の問題に関わることが多いのですが、森林資源の活用方法が、今一番深刻な問題となっています。戦後、木材需要の増加により植えられた木がどんどん育ち、現在は増える分が使う分よりも多い状態にあります。高知県では「土佐の森方式」というNPOによる間伐が行われており、この取り組みは全国に広がって



まち だ さとら  
**町田 睿**さん

昭和13年、旧千屋村生まれ。東京大学法学部を卒業後、富士銀行に入行、同行常務取締役を経て、平成7年に荘内銀行代表取締役頭取。平成21年から北都銀行取締役会長ならびにフィデアホールディングス取締役会議長。秋田市在住。

**我が町の魅力はここにあり  
語るべき言葉を持つ**

町長・永田大使、芸術家の観点から見ていかがでしょうか。

います。美郷町の風景の中にも当然森林が入りますし、水と森林は一体の関係にあります。皆さんが森林を媒介にして色々な活動に取り組み、関心を持っていただければ大変嬉しく思います。

さ さ き たけし  
**佐々木 毅**さん

昭和17年、旧千屋村生まれ。昭和48年に東京大学で法学博士の学位を取得。東京大学法学部教授、同大大学院法学政治学研究科長兼法学部長などを経て、平成13年に東京大学総長に就任。平成17年、紫綬褒章を受章。現在、学習院大学法学部教授、日本学士院会員。東京都在住。



永田大使・今朝、美郷町に着いてから宿泊先のサン・アールに荷物を置きに行くと、周辺には新雪が残っていました。山間の紅葉と常緑樹とのコントラストがとても際立っていて、一つの時間の中に秋と冬が融合し、本当に美しい景色でした。六郷のあたりには雪がありませんでしたので、改めて美郷町は広いなど実感しました。合併したということは、それだけ資源や見るべきものが増えたということだと思います。



なが た もえ  
**永田 萌**さん

昭和24年、兵庫県生まれ。絵本作家。花と妖精をテーマとした夢あふれる作風で、絵本やエッセイなど140冊を超える著書出版。平成21年には美郷町学友館で特別展を開催、合併5周年記念式典では記念講演を行うなど美郷町とのゆかりも深い。元兵庫県教育委員長。京都府在住。

これは、たびたび申し上げるのですが、水がいいということ、当然その恵みもたくさんあります。水の恵みの一つに花があります。美郷町の花の色は本当にきれいです。郷々に植えられた花も、色が鮮やかで形が美しい、そして大きい。これは誇るべきことだと思います。お酒やお米といった「食」も水の恵みの一つです。食が豊かで美味しいことは人間の素朴な喜びにつながります。琵琶湖の水を飲み慣れている私たち

からすると、美郷の水は何とも言えない味わいを感じます。当たり前にあるものの素晴らしさは、それに取り囲まれている方には気付かないことが多いのではないのでしょうか。ですから、ちよつと旅行でもしていただいて、積極的に水を飲んだり、旅先のを食べることで、いかにこの地が豊かな食材に恵まれているのかを実感していただきたいと思います。

地元のために何かをするためには自分のふるさとを愛し、語るべき言葉を持たなければいけないと思います。「我が町の素晴らしさはここにあり」というのを自分の言葉で語るためには、その素晴らしさを実感しなければいけません。

美郷町を訪れると、町内の小学生とお話をしたり、写生大会と一緒に絵を描いたりする機会があります。本当に素直でいい子たちが多いと感じます。当然その結果は全国の学力テストの成績に表れています。これは、地域の教育力によるものだと思います。伝統行事を通して世代を超えた人たちの心がつながり、家におじいちゃん、おばあちゃんがいて大家族の中で育ってきた良さが、美郷町には当たり前のものとして残されているのです。『地域の教育力の豊かさ』は、一見ただだけではわかりませんが、誇るべきことだと思います。